

浜岡原子力発電所4号機 燃料検査台の改造工事の実施について

平成 20 年 9 月 11 日

当社は、浜岡原子力発電所4号機のプルサーマルで使用するウラン・プルトニウム混合酸化物燃料(MOX燃料)について、平成20年3月4日に経済産業省に対し、電気事業法第51条第3項に基づく輸入燃料体検査の申請を行いました。

また、平成20年5月6日(現地時間5月5日)から、フランスのメロックス工場にてMOX燃料の製造を開始しています。

([平成20年3月4日](#)、[平成20年5月7日](#)お知らせ済み)

4号機の燃料検査台(※)について、ウラン燃料に加え、MOX燃料でも使用できるよう改造するための工事を、本日、開始しましたのでお知らせいたします。

燃料検査台を改造する目的

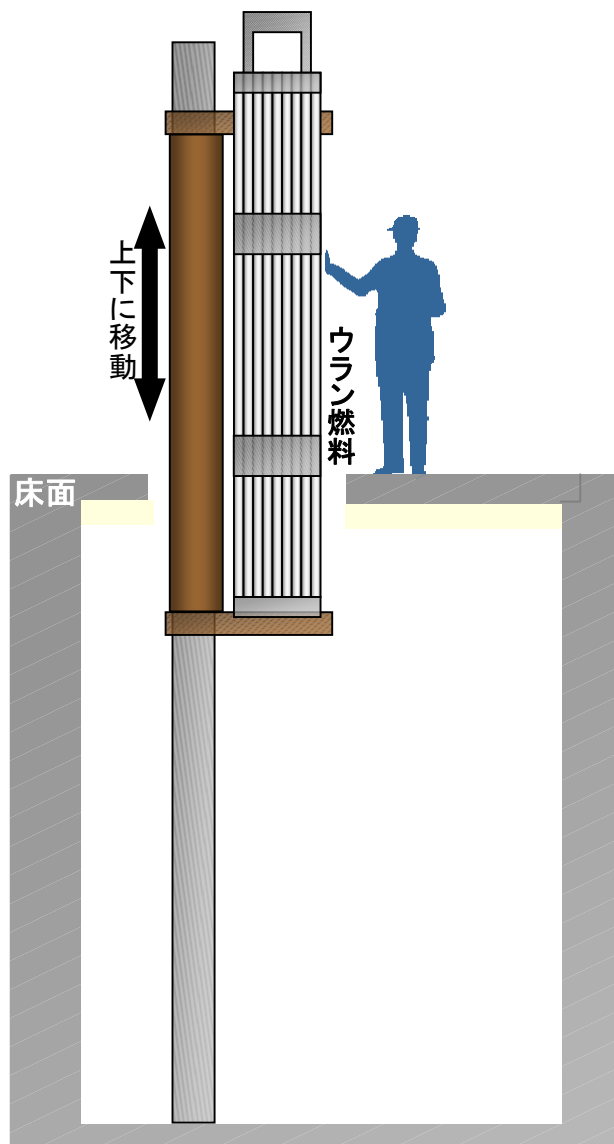
MOX燃料(新燃料)は、ウラン燃料(新燃料)と同様に空気中で取り扱うことができます。しかし、MOX燃料は、ウラン燃料に比べ放射線量が高く、取り扱いに際しては「距離を離す」や「遮へいを設ける」等の措置が必要となります。

このため、MOX燃料検査時に、検査作業員が受ける被ばく線量をなるべく抑えられるように、燃料検査台を改造します。

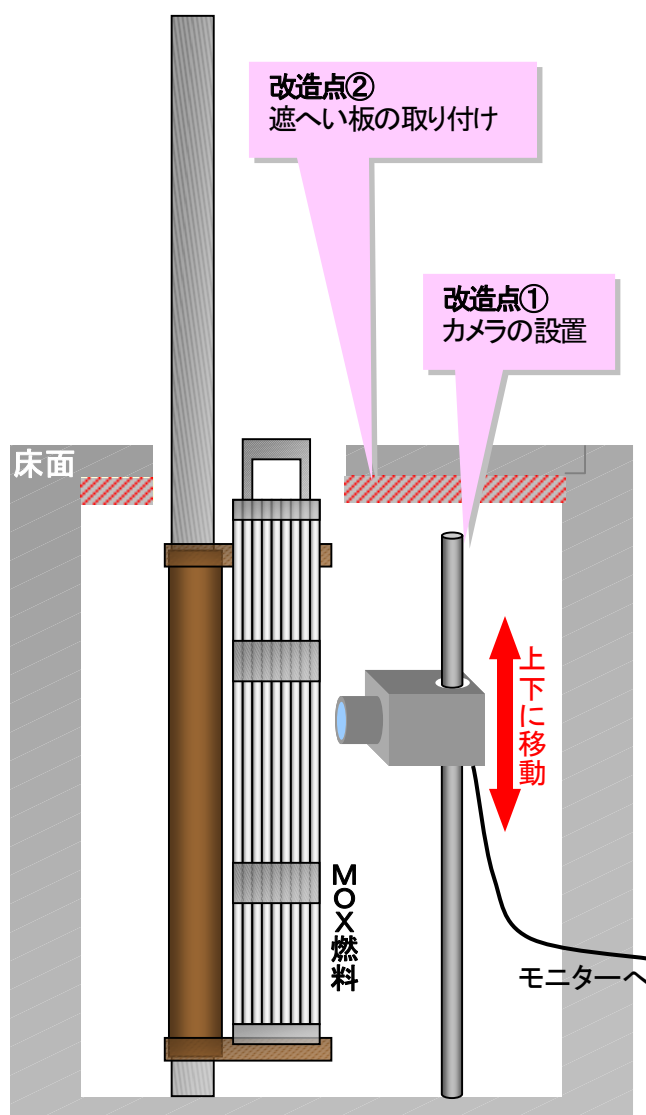
※ 燃料検査台は、新燃料を発電所に受け入れた際に、燃料集合体1体ずつを同検査台に固定し、外観検査を実施するためのものです。

以 上

改造前の燃料検査台(図1)



改造後の燃料検査台(図2)



◆ウラン燃料の検査は、ウラン燃料を載せた燃料検査台が上下に移動し、検査作業員が燃料表面の目視検査を行い、損傷や変形がないことを確認しています。(図1)

◆MOX燃料は、ウラン燃料と比較して放射線量が若干高いため、検査作業員の被ばくを低減する目的で、燃料検査台に以下の改造を施します。この改造により、MOX燃料の検査を行う際は、MOX燃料を載せた燃料検査台を床下空間に移動させ、カメラで撮影された映像を他の場所に設置されたモニターで確認し目視検査を行います。(図2)

- ①カメラの設置…上下に移動するカメラを設置し、カメラを使用した目視検査を実施します。
- ②遮へい板の取り付け…床面に遮へい板を追加します。